



日本が世界に誇るもの

心あったかニュース

海外の人は、自分の国の歴史、文化を数時間でも熱く語るということを、聞きました。海外にいる娘に、

本当なのか？聞いてみましたら、そうだと。娘は、日本の説明は忍者と言って終わりだったようです。教育が敗戦のままを引きずっている現代でも、やはり自分で興味をもって

自分の国を知りたいと思います。ヤフーニュースに興味深い内容がありましたので、ご紹介いたします。

「皇室のルーツ」どこまで知ってる？教科書では学べない

“万世一系”の真偽

日本の皇室では、8世紀に編纂された公式の史書である『日本書紀』に基づき、紀元前660年に即位した神武天皇と呼ばれる王者が初代であるとしている。伊勢神宮に祭られるアマテラスという女神の孫が九州の宮崎県に天上から降り、その曾孫である神武天皇が奈良県にやってきて橿原市に小さな国を建てたのが、この年の2月11日だとし、この日が建国を記念する日として祝日と

なっている。ただし、この国の支配地域は奈良県の一部にとどまり、10代目の崇神天皇になって奈良県を統一し、本州の中央部を支配する日本国家の原型が完成したようだ。だが、『日本書紀』に書かれている歴代天皇の寿命は長すぎるので、通常の寿命に補正してみると、神武天皇は紀元前後の人で、崇神天皇は3世紀、仲哀天皇と神功皇后は4世紀の人物になる。天皇の祖先による中国との国交は、5世紀の仁徳天皇から雄略天皇までの5人の天皇による南朝との交流が最初である倭の五王)。特に、378年に書かれた倭王武雄略天皇とみられる)の手紙には、この王者の先祖が、近畿地方から出発して、東、西、さらには、海峡を渡って朝鮮半島に領土を広げたと書いてあり、『日本書紀』の記述と一致する。『日本書紀』の記録を真実だとすると、初代の神武天皇から数えて、現在の天皇陛下は126代目で、世代数では74世代目である。そして、その間、男系男子による継承が維持されているという。これをしばしば、『万世一系』と呼ぶ。つまり、4世紀に成立した統一国家は、紀元前後に奈良県で成立した小国家が発展したものであって、その王者は同一家系で、男系男子で断絶することなく継承され、現在にまで至っているというのである。

だから、日本人も胸を張って、伝説では2700年近く前、実際には紀元前後に皇室の先祖によつて建国された国が、4世紀に日本を統一し、現在まで独立と統一を断絶なく維持し続けている」と主張すべきだし、それは世界から尊敬されることなのである。ということですから。かなりはしりましたので、興味のある方は、詳しくみてください。

編集後記

愛国心は、あつて当たり前なものと思いましたが、世界から見ても、貴重などころ、大切にしているものを、説明できることは大事だなぁと思いますし、そういう教育をしてほしいと思います。世界では、国に対して自分は何ができるか？を考えている人達が多くいるというのを、聞くと、日本をもっと知ろうよ。と思うのです。